

IV 講評

「地域学習」を取り入れた先進的な取り組みを高く評価

元愛媛大学 教授 上岡 一世

知的障害教育においては、これまで、子どもの自立、社会参加、就労の実現を目指して教育課程を編成し、教育活動を展開してきました。具体的には、知的理解力に弱さを持っているが、行動的理解力は可能性があるという、知的障害の特性を生かして、教科学習よりも、教科・領域を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）を教育課程の中心に据え、自立、社会参加、就労の実現に向け、日々努力を積み重ねてきました。教科学習を通して知的に理解するよりも、体験を通して、行動を理解する、すなわち生きる力を身に付けることに力点を置いて指導をしてきました。

こうした指導は、日本の知的障害教育を充実、発展させました。自立、社会参加、就労を実現する子どもは増え、一定の成果を得ることができました。一定の成果というのは、目標の実現は、まだまだ知的能力が高く、障害の軽度の子どもに限定されていたということです。言うまでもなく、教育というのは、すべての子どもたちを対象に目標が実現できるものでなければなりません。今、キャリア教育の視点での特別支援教育の見直しが求められています。これは、すべての子どもたちの自立、社会参加、就労の実現に向けた教育あり方を検討しようとするものです。今までの教育のよさは生かしつつ、教育の見直しを求めているのです。

この課題に向き合い、実践研究を通して、今後の教育内容、教育方法を明らかにしようとしたのが宇治支援学校の取り組みです。

特徴的な実践の一つは、地域学習を中心に据えた教育実践の展開です。地域を巻き込み、地域とともに歩む学校であってこそ、子どもたちが豊かな人生を歩むことができると考えているのです。地域の人とかかわり、地域で学び、地域で生活し、地域で働く、という当たり前のことを当たり前に実現したいという強い思いがこの学習には込められています。地域に支えられ、地域にしっかりと根付いた教育実践は子どもたちに自信と勇気を与えています。子どもたちにとっては学校卒業後の人生を豊かにしていく上での貴重な体験が積み重ねられています。地域で子どもたちが存在感を示すことが人生の質を高めることになる、と考えたこの実践は、今後の教育の可能性を追求するもので高く評価できます。

筆者は、この2年間、本校の実践研究にかかわり、多くのことを勉強させていただきました。何よりも感心させられたのは、大規模校でありながら、地域学習の重要性をすべての先生方が認識し、熱心に取り組む姿です。地域の人を巻き込み、地域の人に学び、地域の人に関わりながら学習を展開していくわけですから、今までの学習と比べたら、どれほど大変で、苦労が多いことか、想像がつくと思います。教師だけで授業を進めるのではないですから、並大抵ではない、事前の準備、それも周到な準備が必要になります。また、地域の人との良好な人間関係が構築されていなければ学習は成立しません。こうした様々な課題を解決し、学習を成立させるために、ここではコーディネーター（地域学習の専任

の教員)を配置しています。

学校での授業を持たない地域学習の専任の教員を配置していることを見れば、地域学習にかける、この学校の本気度が伝わってきます。担当の先生にとってはなかなか大変な仕事です。前例のない仕事の連続ですから苦勞も多いと聞きました。常時、地域に出かけ、地域資源を発掘し、特別支援学校のこと、子どもたちのこと、学校教育が目指していることなどを十分理解してもらったうえで、地域の人との信頼関係の構築に努めるのです。それだけではありません。次は、様々な地域資源があることを先生方に伝え、地域学習として成立させる段取りを整えていくのです。なんとといっても主役は子どもたちですから、子どもたちが生きる学習にするためには、教師と地域の人がどういう役割を担えばよいかを細かく検討し、学習を計画する必要があります。しかも対象は小学部から高等部まであるわけですから、その大変さが分かります。でも担当の先生は「大変やりのある仕事だし、責任がある」とおっしゃっていました。地域学習の専任の先生がいるからこそ地域学習が成立している、と感じました。

もう一つ特徴的な実践があります。それは、地域学習の質を上げるために、「基礎的な学習の時間」を新たに教育課程に位置づけたことです。これは他校でも教科的な内容を個々の能力に応じて学習する場としてとりあげているところもありますが、ここでは教科・領域を合わせた指導として位置づけています。違いは基礎的、基本的な各教科等の内容を直接指導するのではなく、具体的な課題を解決する体験を重視した学習になっています。日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習と同等の位置づけになっているのは、「基礎的な学習の時間」が子どもたちの生きる力を育む上で欠かすことができない、ととらえているからです。

「基礎的な学習の時間」が機能すれば、子どもたちの生活の質は、間違いなく、今まで以上に高くなると考えているのです。他の教科・領域を合わせた指導と同等の位置づけとは、決して、単独での学習を発展させようとしているではありません。他の教科・領域を合わせた指導と密接に関連させた指導を行うことで、「基礎的な学習の時間」の学習の意義、目的を明確にし、授業の質を高めると同時に、より質の高い生きる力を身に付けようとしているのです。「基礎的な学習の時間」を単に基礎学力向上のために必要だから取り入れているのではなく、地域学習という教育の柱を、より充実、発展するためにはどうしても必要なことであるという必然性に基づいて位置づけられているのです。こうした目的を明確にした、生活を総合的に高めていこうとする指導も、新たな試みとして高く評価できます。

この学校の教育課程は、子どもたちの将来の人生の質を高めるためには地域学習が欠かせないという信念に基づき編成されています。他校でも同じような教育課程もあるでしょうが、人生をよりよく生きるということに焦点を当てて編成されているところに特徴があることを強調しておきたいと思います。